

# 生態系を脅かす!! 外来種の危険とは

日本の生態系は、長い期間をかけて食う・食われるといったことを繰り返して、微妙なバランスのもとで成立しています。ここに本来その地域には生息せず、人の手によって他の地域から持ち込まれた外来種が侵入してくると、生態系のみならず、人間や、農林水産物まで、幅広く悪影響を及ぼす場合があります。もちろんすべての外来種が悪影響を及ぼすわけではなく、自然のバランスの中に組み込まれ、大きな影響を与えずに順応してしまう生物もいます。近年、町内でも外来種を見かけることが多くなりました。そこで今回は、外来種が及ぼす影響や対処の仕方などを紹介し、外来種について考えます。

## 特定外来生物とは

外来種のうち、「特定外来生物被害防止法」で指定されたものです。在来の生物を捕食したり、生態系に害を及ぼすおそれがある生物です。



## オオキンケイギク

北米原産の多年草で、4～7月にかけて黄色のコスモスに似た花を咲かせます。強靱でよく生育することから、かつては工事の際にのり面緑化として使用されたり苗が販売されていました。しかし、あまりに繁殖力が強く、いったん定着してしまうと在来の草花の生息場所を奪い、まわりの環境を変えてしまう花です。

## ◎駆除のポイント

「オオキンケイギク」を駆除するには、根こそぎ抜き取ってください。抜き取ったオオキンケイギクは袋に入れて燃やすごみとして処分してください。

## 特徴

### 【花】

開花時期は4～7月頃。直径5～7センチメートルの黄色く目立つ花を咲かせる。形はコスモスの花に似ている。

### 【葉】

両面に短い毛がある。葉は鳥の羽のように枝分かれをし、丸みがある。

### 【茎】

高さ30～70センチメートル程度。根元付近から束状に多数生えている。



道路のり面や公園に咲くオオキンケイギク



### セアカゴケグモ

平成7年大阪府で初めて発見されて以来、生息域を  
広範囲に拡大させた毒性を持ったクモです。特に毒性  
が強いのはメスです。セアカゴケグモのメスは全体的  
に黒色または濃い褐色をしています。特に腹部の背の  
部分に赤色の帯状の模様があるのが特徴です。

#### ◎駆除のポイント

素手で触らず、市販の殺虫剤をかけてください。そ  
の後、弱ったことを確認して踏みつぶしてください。  
卵のうを見つけた場合は、サイバシなどでビニール袋  
に入れ、封してから踏みつぶしてください。



#### 咬まれたときの処置方法

- 傷口を流水で洗い、患部を冷やします。多少出血があっても包帯や止血帯はしないようにしましょう。
- できるだけ早く医療機関で受診しましょう。
- 医療機関には、咬まれたクモを殺して持参した方が適切な治療につながります。



セアカゴケグモの卵

出典：愛知県衛生研究所

#### 特徴

- 全体が黒色で大きな球状の腹部の側面に目立った赤い模様。
- メスの体長は7～15ミリメートル。
- オスの体長は3～5ミリメートル。
- 毒性が強いのはメス。



成体のメス 出典：愛知県衛生研究所



成体のオス  
(オスは毒が弱い)

#### 特徴

- 体の色は赤茶色、腹部は暗い色。
- 体長は2.5～6ミリメートル。
- お尻に毒針がある。



体長2.5～6ミリメートル



#### 刺されたときの処置方法

- 傷口を流水や氷で冷やし、安静にします。
- できるだけ早く医療機関で受診しましょう。

#### ◎対処のポイント

素手で触らないようにしてください。発見時は刺激せず、発見日時、発見者、発見場所及び発見時の状況について、できる限り写真の画像を添付のうえ、環境課へ連絡してください。



### ヒアリ

南米中部に生息するアリで、平成29年に日本で初めて確認されました。体色は赤茶色でお尻には毒針を持っています。刺されると、激しい痛みやかゆみ、発熱、じんましんなどの症状が引き起こされる場合があります。

## 生態系被害防止外来種とは

環境省の生態系被害防止外来種リストに選定され、生態系、人の生命と身体、農林水産物に被害を及ぼすおそれがある生物です。

### アメリカセンダングサ

アメリカ原産の一年草で、各地の湿り気のある荒地や道ばたに生えています。黄色のかわいい花を咲かせますが、他の雑草と比べても繁殖力が強く、庭を侵食します。また、種になると衣服や靴にくっついたりします。日本にもともとあるセンダングサを含め他の生物の生息場所を奪っている花です。

#### ◎駆除のポイント

「アメリカセンダングサ」も根こそぎ抜き取ってください。刈り取ったアメリカセンダングサをそのまま地面に放置してしまうと、また、そこに根付いて繁殖してしまいます。刈り取ったセンダングサは袋に入れて燃やすごみとして処分してください。

#### ⚠ 駆除を行うときの注意点

- 除去した植物は、丈夫な袋に入れて、しっかりと口を縛って保管しましょう。
- 速やかに町指定のごみ収集日に、燃やすごみとして出してください。
- 生息している場所の管理者に了解を得てから、刈り取りしてください。

#### 特徴

##### 【花】

開花時期は7～9月頃。直径5ミリメートル程の黄色い花を咲かせる。

##### 【葉】

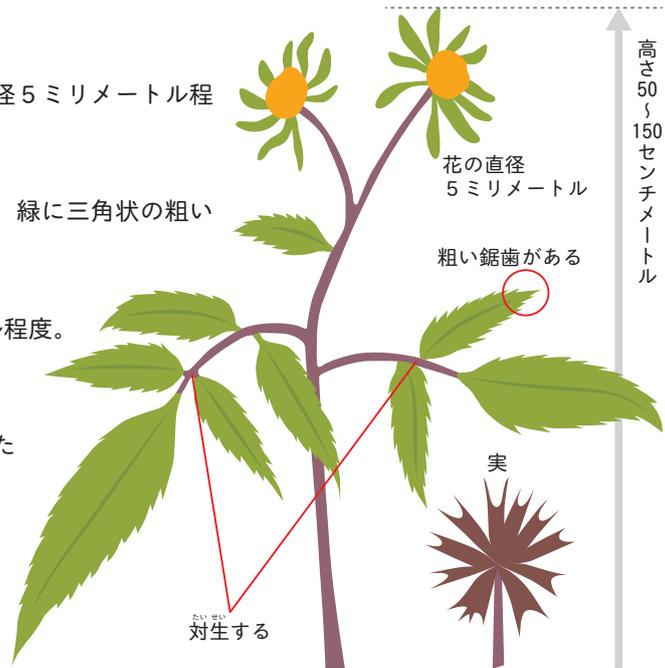
細長く、先端は尖っており、緑に三角状の粗い鋸歯が付いている。

##### 【茎】

高さ50～150センチメートル程度。暗紫色でほぼ無毛。

##### 【実】

平らでかぎ状の剛毛の生えた2本のとげがあり、衣服などにくっつく。



アメリカセンダングサ



外来種が繁殖した原因の多くは、海外からの輸入、飼育を放棄して野に放ったなど、人為的な原因によるものです。外来種は特別な許可がない限り、栽培・飼育することは禁止されています。日本古来の自然を守るため、自分たちの行動が生態系にどのような影響を及ぼすかを意識する必要があります。大量に発生しているところを見かけましたら、環境課へ情報の提供をお願いします。

環境保全グループ

問合せ

環境課環境保全グループ  
 ☎(0564)62・1111(内線272)  
 FAX(0564)63・5169

スクミリンゴガイ

ジャンボタニシとも呼ばれている外来種の巻貝です。もともとは食用として日本に持ち込まれましたが、養殖所から流出して野生化したものが繁殖しました。雑食性で柔らかい物を好むことから、特に田植え直後の苗などを食べ散らかします。卵は鮮やかなピンク色をしていて、春から夏にかけて、用水路や水辺周辺に卵を大量に産み付けます。

●駆除のポイント

卵を駆除する際は絶対に素手で触らないでください。卵には毒があり、人に感染する寄生虫もいます。卵は水中では孵化できないので、棒などを使って水中に落としてください。



●駆除を行うときの注意点

- 素手では、絶対に触らないようにしてください。
- 自分が所有していない他の人の土地に生息していた場合は、勝手に駆除を行わないでください。

**特徴**

- 成貝の大きさは5～8センチメートル。
- 長い触角がある。

大きさ5～8センチメートル

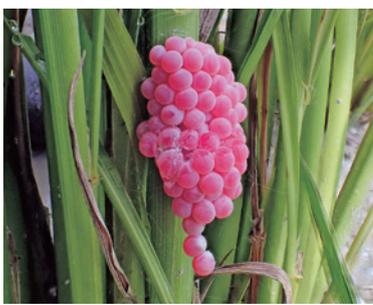
スクミリンゴガイ

一つの卵塊に200～300の卵がある。卵には毒がある。

スクミリンゴガイの卵



スクミリンゴガイ



スクミリンゴガイの卵

出典：愛知県農業総合試験場